

会員のひろば

題字：森 和恵

◇いつも一つ一つの記事が読

み甲斐があります。それは、一つ一つの分野をつかんでいるからですね。ただ、今、群馬の教育界だけではなく、それぞれの地域にこのような分野を総合する組織と政策の確立が必要ですね。かつての様に、「群馬全体」を常に動かせる…。終活として、群馬の高校生の地域活動の総括を「私」を中心にはじめよう。様にと、昨夜も鹿児島大学協(社会教育推進全国協議会)の全国大会で話し合っつもりです。

(館林市・守隨吾朗)

◇(近現代史ゼミフィールドワークに参加して)

平和なくらし縄文と対外戦争の半世紀、半日で学ぶことができました。気候温暖による縄文海進で魚貝類多く、狩猟採取長く続いた。朝敵藩とされた軍と政府軍との戊辰戦争から西南戦争までの内戦の後、明治二七年の日清戦争から太平洋戦争まで、何れも日本軍が仕掛けたものでした。東アジア・太平洋地域の人々に謝罪と反省の言葉なく、今、平和憲法を改悪しよう

としているのです。

戦後のベビーブーム。復員兵だけでなく、すべての旧植民地からすべての民間人が内地へと引揚げてきました。戦時中に亡くなった人三〇万人、その数に匹敵する赤ちゃんが一年数か月で誕生。団塊世代問題、今も続いているのです。

実りあるフィールドワーク、企画された役員の方々にお礼申し上げます。

(前橋市・阿佐美良雄)

◇九月二七日(木)雨の軽井沢に仲間四人と

入りました。こんな日にキノコとりとは気違いですね、俺たちは、とぼやいたのは私。この日M氏が林の中の通路沿いの赤松の根元で、全長二〇センチくらいの見事な松茸を二本発見。同行のY氏が輪菌をなしているはずだから、それにあやかっ…と近くを探して一本を採取しました。会を主催したU氏は嘆いた。「この道四〇年の俺が、一〇年選手に抜かれてしまった」と。私はU氏とはまた別の意味で、がっかりしていました。「本当の親友は相手の喜びを自分の喜びとする」と言いますが、私は、M氏の幸運が少しも嬉しくなかった。むしろ、うらやましいな、なんでオシの目には見えなかったんだらう?という思いで一杯でした。M氏と私とは同年で、一〇数年のつき合いがあります。単な

る友人ではなく、どちらかという親友かな?

と想っていたのに、「違っ」ということを思い知りました。これを何人かに話したら、「現実はそのものだろう」ということでした。するつてえと、今まで見知った様々な「信条」の多くがアテにならない嘘っぱちという可能性もあります。

灯火親しむ候。読書もいけれど、己と人間性について、もっと深く考えた方がいいなと、反省させられた出来ごとでした。

(高崎市・金井秀行)

